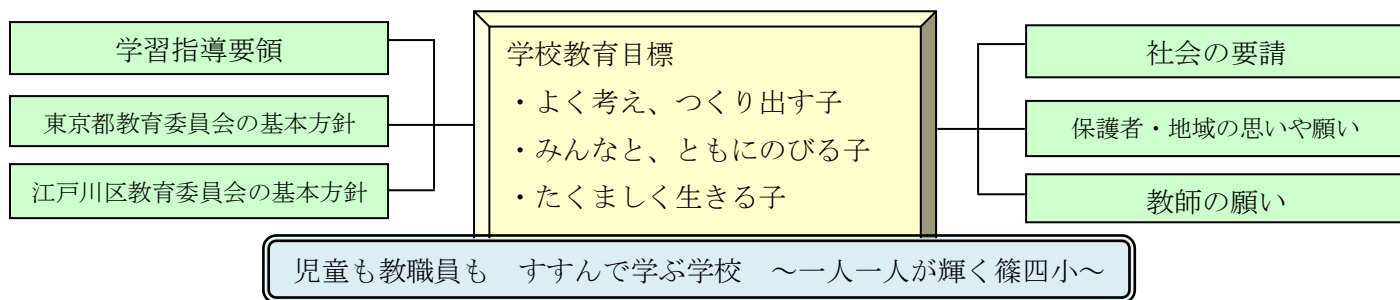
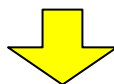


研究構想図

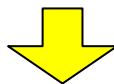


| | 低学年 | 中学年 | 高学年 |
|--------|---|--|---|
| 児童の実態 | <ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に学習に取り組む児童が多いが、自分の考えをうまく表現することができない。 ・一問一答になってしまい、友達の考えをもとに自分の考えを拡げることが不十分である。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習に対して意欲的に取り組み、与えられた課題に対して積極的に取り組む。自力解決をする際、筋道立てて考えたり、自分の考えを表現したりすることに戸惑うことが多い。 ・既習事項の定着が不十分である児童がかなり見られる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に取り組もうとする児童は多いが、自分の考えや意見をすすんで書いたり発言したりする姿が少ない。 ・これまでの学習内容がよく定着している子と、そうでない子の差が大きく、二極化見られる。 |
| 目指す児童像 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをわかりやすく表現する児童。 ・友達の考えを聞きながら、最後まで考えられる児童。 | <ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を使って、進んで自力解決をはかろうとする児童。 ・自分の考えがわかるように説明することができる。 ・友達の考えを聞き、自分の考えとの相違に気が付ける児童。 ・課題をやり遂げる楽しさを味わい、最後まで根気よく取り組もうとする児童。 | <ul style="list-style-type: none"> ・言葉、数、式、図、表、グラフを用いて考えたり、説明したり、互いに自分の考えを表現し伝え合ったりできる児童。 ・およその大きさや形をとらえ、それらに基づいて適切に判断したり、能率的な処理の仕方を考え出したりすることができる児童。 |



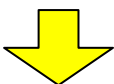
研究の仮説

(1) 表現する場の工夫 (2) 学習課題、問題提示の工夫
上記 (1) (2) により、児童が主体的に学習するようになるのではないかと。



研究主題

主体的に学ぶ児童の育成～算数科等の指導法の充実を目指して～



主題に迫るための具体的な手立ての例

| 表現する場の工夫 | 学習課題、問題提示の工夫 |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・全体、グループ、ペアで自分の考えを伝える。 ・ノート等で、図や文字を使って考えたことを表現する。 ・自分の考えと比べながら友達の考えを聞き、学び合う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・具体物を使用して児童の意欲を高める。 ・条件不足や問題の一部を□で抜いた問題を出して、「どうすればいいのか」という問いをもたせる。 |